

# 「母子保健支援結果連絡票」にみる 臨床助産師の継続支援と連携に関する認識

○福澤 雪子(福岡女学院看護大学看護学部)

鄭 香苗 (医療法人エスタブリューシー真田産婦人科麻酔科クリニック)

【研究目的】母子保健支援結果連絡票(以下、結果連絡票)を通して臨床の助産師の継続支援や行政との連携・協働に関する認識を明らかにし、課題を検討する。

【研究方法】**調査対象:** A市および近郊の産科医療機関に勤務する母子支援連絡票提出経験がある看護職を対象に調査を実施。回答が得られた125名のうち、助産師115名を分析対象とした。

**調査方法:** 看護責任者の同意が得られた18施設に自作の自記式質問紙を郵送、看護責任者より文書と口頭で説明後に同意が得られた対象に配布、個別に郵送で回収した。調査期間は2015年3月15日～4月15日。

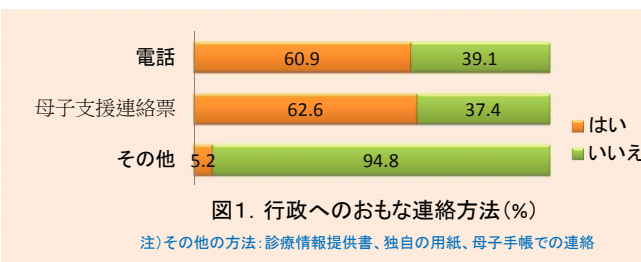
**分析:** SPSS ver.23を用いて記述統計量を算出、2群の比較には $\chi^2$ 検定を行った。

**倫理的配慮:** 同意を得た対象に「研究目的、結果の公表、自由意志による参加と撤回の自由、プライバシー保護」等を説明、投函をもって同意とした(無記名)。本研究はB大学研究倫理委員会の承認を得て実施。

## 【結果】

項目	値	割合
年齢(±SD)	37.8(±10.8)歳	範囲23～76歳
臨床経験(±SD)	n=114 11.7(±10.6)年	範囲 1～54年
勤務施設	総合病院	46名 40.0%
	産科婦人科病院	7名 6.1%
	診療所	62名 53.9%

スクリーニングの種類	実施	人数	割合
特定妊婦スクリーニング	あり	96名	85.7%
	なし	16名	14.3%
	合計	112名	100%
出産後のスクリーニング	あり	75名	68.8%
	なし	34名	31.2%
	合計	109名	100%



結果連絡票に対する認識	そう思う	まあ思う	あまり思わない	全く思わない
現在使用している文章の様式でも支援結果は十分把握できる	7.1	75.8	17.2	0.0
「結果連絡票」の様式の統一が必要だ	15.2	56.6	27.3	1.0
必要に応じて「結果連絡票」の記述量が追加されている	19.2	54.5	24.2	2.0
「結果連絡票」の記載は負担だと思う	3.1	35.1	50.5	11.3
医療機関の依頼に応える支援が行われている	9.2	76.5	11.2	3.1
提供した情報が支援で活用されている	8.1	81.8	7.1	3.0
どの保健師も統一された視点で記述している	6.1	60.6	29.3	4.0
妊婦あるいは母子の現状が伝わる記述になっている	10.1	70.7	17.2	2.0
支援内容は適切だと思う	9.1	82.8	7.1	1.0
支援時期は適切だと思う	4.1	70.4	22.4	3.1
自分が「母子支援連絡票」を送付した対象者の「結果連絡票」は目を通している	56.6	38.4	5.1	0.0
保健師と助産師では支援の優先順位が異なっている	8.2	28.6	62.2	1.0
「結果連絡票」を読むことで行政保健師との連携を実感できる	23.5	61.2	10.2	5.1

注) 表中の網掛けは最も多かった回答を示す

連携・協働に対する現状認識	病院勤務助産師		診療所勤務助産師	
	人数	%	人数	%
上手いっている	22名	22.7%	16名	16.5%
上手くない	2名	2.1%	2名	2.1%
どちらともいえない	21名	21.7%	34名	35.1%

$\chi^2$ 検定 有意差なし

## 表5 連携・協働のための今後に必要な取り組み(自由記述) 記入率57.4%

- 会議・連絡会の開催 32.2%
- 行政への要望; 全例に支援結果の返書を、など
- 顔を密に情報交換を 21.2%
- 現状の振り返り; スクリーニングや連絡票の積極的活用が必要、など
- 相互理解 6.1%

## 【考察】

- ・ 助産師の勤務施設における要支援対象者スクリーニング実施率は高く、行政への連絡方法は主に電話や母子支援連絡票であった。
- ・ 助産師は結果連絡票について、「自分が送付した対象の結果連絡票に目を通し、提供した情報を活用し依頼に応える支援が行われている、支援内容・時期は適切、統一した視点で記述され、必要に応じて記述量の追加があり、妊婦や母子の現状や支援結果は十分伝わる」が、「様式統一が必要」との認識を持っている。
- ・ 「助産師と保健師の支援の優先順位」は同じで、「行政保健師との連携を実感できる」とする反面、連携・協働の現状について、「どちらともいえない」との認識を示す者が多い。連携強化には、「顔を密に情報交換などのコミュニケーション」が必要と考えていた。
- ・ 助産師と行政保健師が顔を密に情報交換を築き、結果連絡票の見直しを含む継続支援のあり方を検討し、連携強化に向けて相互理解を深めていく必要性が示唆された。

## 【結論】

- ・ 助産師の継続支援の実践や結果連絡票に対する認識が明らかになり、行政保健師との連携意識の高さが示された。今後は連携強化に向け、両者がより顔を密に情報交換を築き、相互理解を深める必要がある。